

◆第1回高商物語

◎大正5年に始まった商工

高田商業高校は、大正5年に新潟県高田市立高田商工学校として創立された。初代校長には高田市長の倉石源造氏が就任された。

創立時は、乙種（入学資格は12歳以上。尋常小学校6年修了程度で修業年限は3年以内の学校）の商工学校で商科、工科（家具、建築、漆工）が置かれた。初年度の生徒数は124名で、商科1年54名、2年30名、3年12名、家具科15名、漆工科23名。その年の9月には、早くも学友会（現生徒会）がスタートし、翌年には「学友会雑誌」（生徒会誌「六華」の前身？）が発行されている。

◎創立当初は木造校舎

最初の校舎として、旧高田市立図書館があった場所（大手町にある榊神社向かいの堀端のあたり）にあった建物が使われた。校舎は木造2階建てで、廊下と教室の間の間仕切りは障子だったと紹介されており、歴史を感じさせる。そこから、大正11年に高田市南城町3丁目（現在の高田南城高校の場所）に新校舎を建て移転し、さらに、昭和47年に現在の場所に移転することになる。

最初の制服は、筒袖、はかまおよび制帽というきまりであった。大正10年には、甲種（5年制）への昇格に伴い、和服から洋服になっている。

◎昔も盛ん 部活動

昔の高商生も、部活動や学友会（生徒会）活動にも熱心であったようだ。大正10年の頃には既に、スキー部や野球部、庭球部、柔剣道部があった。昭和の初めの学友会は、文芸部（弁論・会誌・研究）、運動部（野球・庭球・武道・競技・スキー・水泳・角力・応援）、総務部（会計・研究）で構成されていた。中でも隣接していた高田中学（現高田高校）とはすべてにおいて良きライバルであり、野球の定期試合ではファンを二分し、高田の早慶戦と言われていたほどの人気であった。

◎最大行事「展覧会」

六華祭の前身である「展覧会」は大正6年から始まった。生徒の作ったものや仕入れた

商品を販売し、大盛況だったという。大正11年には運動会が始まった。今では恒例となっている修学旅行は、大正8年に始まり、第1回目は東京へ4泊5日のスケジュールで実施された。その他、変わった行事としては、兎狩りが大正9年に始まった。大正10年には雪中マラソンも行われた。

◎厳しかった進級制度

留年は当時は珍しいことではなかったそうだ。工科では、10人中進級者わずか2人という年もあるほどに進級制度は厳しいものであった。こうしたなかで、本校の生徒達は、学力を向上させ育っていった。

◎今に歌い継がれる校歌

現在私たちが歌っている校歌は、昭和4年4月に制定された。前年に赴任した国語教師、小川保教諭により作詞された。戦後、工業の分離や時代の変遷によって若干修正され、今の校歌になった。

(金子・長澤) (参考資料 『鮫城健児の歩み』(高田商業同窓会)『上越市史』)

◆第2回高商物語

◎戦時下の高校生活

昭和13年に「国家総動員法」が発令され、校内では軍事教練が強化された。また、勤労動員により、本業である学業は殆ど行われることがなくなっていった。昭和16年には、高田商工学徒報国団が組織された。食糧増産のため、校庭には野菜などが栽培された。従来の運動部は鍛錬部と、名称が変更されただけでなく、内容自体も競技的要素から鍛錬的なものへと変わった。昭和17年には硬式野球、昭和18年には籠球、庭球も中止され、武道・戦闘能力の増加に役に立つような国防的競技に重点が置かれることとなった。

県外修学旅行は許されず、佐渡旅行が精一杯で、鍛錬を目的とした頑張り行軍が行われるようになった。19年には生徒達は防空服装で登校した。体操や教練が中心で英語は軽視され、やがて英語自体が全廃になった。さらに、商業科の存在が許されなくなり、「新潟県高田工業学校」に改名されてしまう。商業科は機械科に切り替えられてしまったのだった。

◎新生 高商誕生

終戦と共に復活した商業科だったが、校庭は開墾され、工場となっていた学校は学習できるような状態ではなかった。だが、学校・同窓生たちが商工学校復元運動を起こし、続いて商・工それぞれの独立運動を展開して、昭和21年、商業科は復活した。その後、昭和22年に工業科が移転し、昭和23年から高田商業高校が正式に発足する。

昭和21年には戦前の部活動の主なものは復活し、昭和26年には生徒会組織が整備さ

れ、初代生徒会長が選ばれている。妙高タイムスもこの頃発行されていたようで、第9号には生徒会長の挨拶が紹介されている。

さて、学校は戦後長く週6日制で、現在は5日制となっているが、昭和25・26年に約2年間ではあるが、5日制がとられたという。

また、昭和25年4月には、初めて女子学生が入学してきた。その数は7名で、その後、昭和26年度は13名、27年度は18名と次第に増えていった。トイレには苦勞したらしい。

昭和26年、以前から、商業実践活動の一環として、生徒によって購買・銀行を運営していたものを吸収し、全国的にも珍しかった、経営を全て生徒にゆだねた六華商事株式会社を創立した。RIKKAの前身である。入学希望者の増加に伴い、校舎も増築されていった。そうして、新校舎の竣工式もかね、昭和30年10月29日に、創立40周年記念式典が行われた。（金子・長澤）

◆第3回高商物語

◎生徒数急増

昭和30年代は生徒急増期だった。24年度は商業科3学級だったのが、25年度4学級、37年度は5学級、翌38年度には6学級募集となった。特に女子が増加し、31年は51名が入学、38年には倍増の110名、43年の入学生からは男子数を上回り、45年には全校生徒中でも男子数を上回るようになっていった。

部活動数も増え、37年にはソフトボール・バスケットボール・コーラス部が創設された。47年に創刊された生徒会誌『六華』によると、運動部13・文化部16、現在はない山岳、スキー、物理、化学部などもあったことがわかる。

◎新校旗ができる

昭和38年に開かれた同窓会で、50周年事業の一環として新校旗制定案が決定され、翌39年に現在の校旗である紫地に金刺繍の校章と校名を入れたものが完成した。デザインの担当は美術担当の中村教諭だった。39年には創立50周年式典が開かれた。

◎六華商事・六華銀行

昭和30年代の六華商事には様々なものが売られており、33年にはクリーニングも扱っていた。また、35年からは昼食用として「中華そば」（60円）の販売も始まり、43年にはアイスクリーム等も販売するようになっていたが、49年に商事は組織を改め、銀行は廃止された。

◎中田原新校舎へ移転 昭和

昭和35年、本校に定時制課程1学級が開設され、43年度には高田南城高校としてスタートする。それに伴い、本校は旧陸軍練兵場であった現在の場所に移転をすることになった。翌46年3月末、最初に商業科棟特別教室が完成した。当初、2・3年生は新旧両校舎を移動しての授業だった。翌年には普通教室棟も完成し、9月4日からの3日間、全校で新校舎への搬入・配置を行った。これが現在私たちが使用している校舎である。

◎野球部 甲子園出場

昭和51年、野球部が県大会決勝で長岡高校を破り、創立以来始めてとなる甲子園出場を果たした。初戦は宮崎県の福島高校とであり、10―7で勝利した。第2試合目の愛知県中京高校戦は1―12で敗れはしたが、新潟県勢としては昭和37年以来13年ぶりとなる勝ち星を挙げた。

◎60周年記念式典

この年の10月15日、60周年記念式典が盛大に行われた。16、17日には「祝60周年 青春の奔流60年の軌跡」というテーマで高商祭が行われ、喫茶や食堂、映画・レコードコンサートなどの企画があったが、中でも目立っていたのが野球部の甲子園出場記念展示だったそうだ。11月2日には作家の幸田文氏を招いて文化講演会が行われた。

(金子・長澤) (参考資料『鯨城健児の歩み』・生徒会誌『六華』創刊号・第5号)